

「溜池・河川水質調査」結果報告

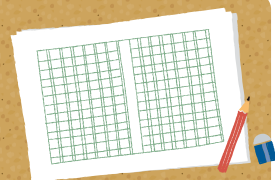
環境部では区長OB会・各区などの協力を得て、若槻地区内18箇所の「溜池・河川水質調査」を10月11日から11月14日の期間で実施しました。

調査内容は試薬によるPH・COD測定、及び気温・水温の測定、目視による河川の状況などであり、毎年、同じ時期、同じ観測点による定点調査を行っています。今年度の結果は汚染等が懸念されるような変化はなく、今年で11年目となりますが開始当初の状況から水質は悪化していないと推測されます。

若槻地区内の自然環境を把握する上で大事なバロメータとなる「溜池・河川水質調査」を行い、データの変化を見るために継続した取り組みが重要となります。今後も引き続き、若槻地区の溜池・河川の水質把握に取り組んでいきます。(環境部)

人権に関する作文発表(徳間小学校)

コミわかでは人権教育・啓発活動として毎年住民集会を開催し、小中学校の生徒さんに人権作文を発表していただいておりますが、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため住民集会は中止とし、生徒さんの作文は広報紙による発表とさせていただきます。(人権教育部会)



考えるのは自由

徳間小学校 六年 丸山 姫咲

私たちは、学校生活でたくさん話し合いをしています。日常の中では当たり前のことの一つですが、この話し合いができるということも、人権なのだと知りました。

授業で、一人ひとりが自分の考えを出し合い、一つの答えを考えることがありました。その時に私は、自分の意見とは違う他の人の意見を聞きながら話し合いをしました。私が考えることは違う内容の意見がたくさんあり、自分で考えるよりも内容が深まった覚えがあります。また、これはないんじゃないかなという意見でも、なぜそのような意見になったのかを聞くと、その意見はすごくいいなと思ったり、納得したりすることもありました。このようなとき、相手の意見だけを聞き、自分が納得しないまま話し合いを続けてしまうと、もやもやしたり、最後までいい気持ちで終われなかったりしたと思います。これは、班の話し合いだけでなく、クラスや学年の話し合いでも感じたことです。

今まで私たちがやってきた話し合いは、当たり前に行われていたことですが、自由に考えをもつというのも人権の一つなので、そのことを忘れずに、自分もった考えを自由に広げていきたいと思っています。そして、他の人と一緒に考えるときは、いろいろな考えを出し合い、その考えを自由に広げていけばいいのだと思います。私はこれからも、話し合いの中で良かった意見や心に残った意見に共感し、いろいろな人の意見を取り入れていこうと思います。

言葉の選び方

徳間小学校 六年 波母山 ほのか

私は、最近ストレスがたまって、その気持ちを親にぶつけてしまうことがあります。さらに、イライラしているので、言葉づかいがあらくなったりする時もあります。後で思い返してみると、「ひどいことを言ったな」と思っていますが、言っているその時は、かっとなってしまっているのでつい言葉づかいが悪くなります。親は、「直した方が良い」と注意してくれますが、友達には言われたことはありません。本当に私の言葉づかいがあらくなければ良いのですが、気をつかって言ってくれてないのかもしれない。そうだとしたら、友達をいやな気持ちにさせているかもしれないので、とても申し訳ないです。自分は気づかずに友達を傷つけているのが、一番こわいです。そんなことを最近よく思うようになって、いつ友達が自分からはなれるのか分からないので、いつも話す時は「明るく」「丁寧な言葉で」「相手の気持ちを考えて」の3つを心がけるようになりました。

私が言葉の選び方を気をつけるようになって、気づいたことがあります。それは、前の性格・心が少しずつ折り曲がっていた自分が、少し変わったということです。性格が何もかも良くなったわけではありませんが、前よりも心に余裕をもてるようになりました。

私がきつく言ってしまうのは、相手に理解してほしい、分かってほしいという思いがあるからだだと思います。でもそんなことは言い訳です。人を傷つけてしまったら、どんな理由があってもダメだと思うからです。言葉はこわいもので、ほんの一言で人を傷つけてしまう可能性があります。かといって、悪いだけではありません。一言だけで相手を幸せにする力も持っています。私は今もたまに暴言をはいてしまうことがあるけれど、前よりだいぶ良くなりました。これからはもっとよくなって、もっと相手の気持ちを考えられる人になりたいです。そして、相手を傷つけない言葉を選び、みんなを幸せにできるような人になれるといいなと思います。